

セキュリティを担保しながら ウェブ制作の効率とクオリティを向上



高品質な写真やフォントのサービスを、きわめてセキュアな環境で
使えるようになったのは大きなメリットでした。

株式会社 エイチ・アイ・エス WEB 旅行営業本部 WEB 制作グループ 田原 洋将氏

導入製品

- ・ Adobe Creative Cloudエンタープライズ版
- ・ Adobe Stockエンタープライズ版

導入メリット

セキュアで容易なID管理



Enterprise ID 運用による、強固な
セキュリティと容易な管理を実現

作業時間が従来の約半分に



手間と時間のかかっていた
手動作業を自動化

新しいツールがすぐに 試せる環境



多彩なアプリを自由に選択し
新しい分野へチャレンジ

充実したサービスによる クオリティの向上



高品質な画像やフォントの利用で
デザインの幅を広げる

株式会社 エイチ・アイ・エス

1980年創業、日本の旅の変革を求め、格安航空券の市場を開拓。現在は、国内282店舗、海外70か国159都市271拠点（2019年2月時点）を展開。世界を結び、文化・人種の理解を深める旅行事業を中心に、ホテル事業、テーマパーク事業、エネルギー事業、ロボット事業、保険事業など多様な事業を展開している。



WEB 旅行営業本部
WEB 制作グループ グループリーダー
田原 洋将氏



WEB 旅行営業本部
WEB 制作グループ 関東制作チーム
小野 ゆかり氏

日本発の海外旅行を主軸とした旅行事業を展開し、現在ではテーマパークなど多面的に事業を展開する株式会社 エイチ・アイ・エス。同社は実店舗に加え、オンラインでの予約手続きが可能な総合旅行サイトを運営し、その制作業務を内製で行なってきた。そして、ますます競争が激化する中、制作効率とクオリティ、セキュリティのさらなる向上を図るため、同社は Adobe Creative Cloudエンタープライズ版を導入した。

■ 背景と課題

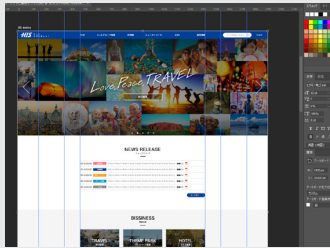
クラウド利用における管理面での懸念

インターネットやスマートフォンの普及に端を発するIT技術の革新により、旅行業界を取り巻く環境はこの10年で激変した。新たな勢力としてオンライントラベルエージェンツ（OTA）も登場し、必ずしも旅行会社の店頭に行かずとも、スマートフォンから容易に検索、閲覧、予約手続きが行えるようになった現在、同社にとってもウェブサイト窓口としたオンラインサービスの強化は最重要課題の1つである。

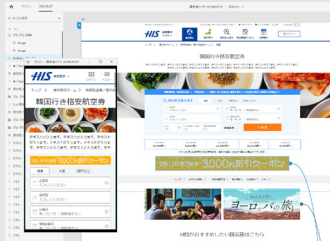
同社の旅行総合サイトでは、海外および国内旅行に関する様々な商品を取り扱っており、その情報量は膨大だ。また、競合他社との差別化を図っていくためにはスピード感をもって新しいサービスを展開していく必要があり、その情報量とスピードに対応するため、サイト制作のほとんどを内製化。現在、全国10拠点に制作チームを置き、約120名のスタッフが業務に取り組んでいる。

同社はこれまでウェブ制作ツールとして、Creative SuiteのPhotoshopやIllustrator、Dreamweaverなど複数のアドビ製品を使用してきた。以前は各拠点ごとバラバラにパッケージ製品を購入していたが、旧バージョンのサポート切れやアップグレード終了を機に、Creative Cloudの導入検討を開始した。WEB制作グループのグループリーダー 田原 洋将氏は次のように話す。

「Adobe IDでのCreative Cloud利用を検討したこともありましたが、我々から見るとAdobe IDはあくまで個人のアカウントなので、会社側で管理やコントロールがしきれない部分が課題です。例えば、退職者が自分のIDを使って会社のデータにアクセスするなどのリスクも想定できます。だからといって、最新のアプリが使えるようになったものの、Adobe Fontsといったせっかくのサービスに制限をつけて、利用できなくすることは回避したかったです」



総合旅行サイトのデザインやイメージ作りにPhotoshopを活用



Adobe XDを使って画面遷移などのユーザー体験を検証

USER PROFILE

株式会社 エイチ・アイ・エス

<https://www.his.co.jp/>

所在地：東京都新宿区西新宿 6-8-1
住友不動産新宿オークタワー
29 階

創業：1980年12月19日

資本金：11,000 百万円（2018年10月31日現在）

従業員数：17,054 人（グループ全体 2018 年 10 月 31 日現在）

事業内容：旅行事業、ホテル事業、テーマ
パーク事業、エネルギー事業、保険事業 等



製品情報

adobe.com/go/cce_jp



アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

そうした管理面での懸念を払拭するため、同社ではCreative Cloudエンタープライズ版の導入を検討。Enterprise IDによる運用で、より強固なセキュリティを実現できることから、2018年に導入を決定した。

■ 導入効果

セキュアで容易なID管理

Enterprise IDは企業が作成、所有、管理するもので、システム管理者が製品とサービスへのアクセスを制御し、ユーザーアカウントを一元管理できる。例えばユーザーが退職した場合、そのユーザーのEnterprise IDを管理者が削除し、関連する製品、サービス、データへのアクセスを永久にブロックすることができる。これにより、制限されていたクラウドサービスの利用が可能になった。さらに、管理者を階層化できる点も、エンタープライズ版の大きなメリットだと田原氏は話す。

「弊社の場合、ソフトウェアライセンスの管理はすべて情報システム本部が行なっています。ただ、一人一人のライセンスの付与や付け替えを行う場合、申請やら何やらで時間がかかっていました。エンタープライズ版では、部門ごとの管理者を設定できますので、WEB制作グループのユーザー管理がこちらで行えるようになり、流動的な人の出入りにも迅速に対応できるようになったのが大きいですね」

作業時間が従来の約半分に

制作者にとっては、作業の効率化が導入効果の一番のポイントとなる。WEB制作グループで5年間、制作業務に携わってきた小野 ゆかり氏は、Creative Cloudを次のように評価する。

「私の場合、Photoshopを使ってウェブページの画像を加工したり、カンパを作成することが多いのですが、Creative Cloudになってからは確実に作業効率は上がっています。機能をあげたらきりがありませんが、特に気に入っているのが「書き出し」機能。カンパから必要な画像を切り出してコーダーに渡す際に、これがあるのとないのでは作業の速度が全く違います。複数の解像度で一気書き出せるのもとても便利です。Creative Suiteを使っていた頃と比べると、作業時間は確実に半分以下になっていると思います」

新しいツールがすぐに試せる環境

同社のCreative Cloud環境では、ユーザーが使いたいアプリを自由にインストールすることができる。それによって、クリエイティブの可能性が大きく広がったと小野氏はいう。

「以前のスイートパッケージ製品は使えるツールが限られており、その中でやるしかなかったのですが、Creative Cloudはすべて揃っていて、使いたい時にすぐに試せるのがいいですね。最近では、ウェブサイト動画を入れることも多くなり、自分でも動画を編集してみたいと思っていたのですが、Premiere Rushはまさにうってつけですね。Premiere Proは少し難しいところがあったのですが、Rushはツールをあちこち探すことなく、すぐく直感的に編集ができるので、これなら自分もできるようになって。あと、Lightroom CCをPCとスマートフォンの両方に入れて、離席中でも写真を開いたりして、ほとんど毎日のように使っています」

充実したサービスによるクオリティの向上

Adobe FontsやAdobe Stockなどのクラウドサービスが利用可能になったことで、制作物のクオリティの面でも効果が表れている。

「以前は使えるフォントも写真も限られていたので、同じものを使いまわしていると、どうしてもデザインがマンネリ化してしまうのですが、Adobe FontsとAdobe Stockのおかげでデザインの幅が広がりました。クオリティも高いですし、メンバー全員が同じフォントと写真を共有できるのがいいですね」（小野氏）

これらのサービスは、コンプライアンスの面でも貢献していると田原氏はいう。

「我々は非常に多くの写真を使用し、それらを保存しておくのですが、以前は様々なところから調達していたため管理が煩雑化し、再度使用する時には著作権やライセンス、出所などをくまなく調べなければなりませんでした。Adobe Stockの写真も、Adobe Fontsのフォントも、そうした問題を気にすることなく使えますので、コンプライアンス的にもとても有効です」

■ 今後の展望

ウェブサイトのさらなる進化に向けて、Adobe XDを推進

「XDをもっと使っていきたいですね。今は、ディレクターがワイヤーフレームを作成し、それをデザイナーと共有したり、上司のコメントや承認をもらったりするところで使っていますが、実際のウェブデザインの部分でも使ってもらいたい。そのために、今後は社内ワークショップなど積極的に行なっていきたいですね」

Adobe XDのアンバサダープログラム*に参加している田原氏にとって、社内でのXDの推進は1つの使命とも言える。さらに、全面的なレスポンスデザインへの移行や、動画、AR、VRなども進めていきたいと言う。Creative Cloudの新しい製品や技術をフルに活用した同社のウェブサイトにも、今後も期待したい。

*グローバルで展開されている、ETLA 既存顧客のための利活用促進のプログラム。アドビが主催する Webinar への参加や、社内ワークショップ開催の支援を得られるほか、アンバサダー同士の交流会にも参加できる。

※掲載された情報は、2019年2月現在のものです。

© 2019 Adobe. All rights reserved. Adobe, the Adobe logo, Adobe Premiere, Creative Cloud, Dreamweaver, Illustrator, Lightroom, and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. ASJST1580 2/19